

私の一冊

社会福祉学科 久保 英樹 先生

古川 孝順 著 『福祉ってなんだ』

小鹿図書館 369.7/F 93

この本との出会いは10年以上前になります。『福祉って何だ?』というタイトルを目にしたとき、改めて社会福祉とは何だろうかと考えさせられました。

冒頭にもあるように、私たちの周りには社会福祉に関わる言葉があふれています。介護保険、障害者福祉サービス、子育て支援、生活保護、セーフティネット、バリアフリー、ノーマライゼーション、インクルーシブ、虐待防止、権利擁護——挙げ始めると際限がなく、それだけ社会福祉が身近な存在になっている証拠と言えるでしょう。しかし、社会福祉が充実すれば本来必要とされなくなるはずなのに、なぜ社会福祉はなくなるのでしょうか。社会が常に変化し、新たな課題が絶えず生まれているからでしょうか。

著者は、これまで社会福祉の利用者として想定されてこなかった人々が支援を待っていることを指摘し、「バルネラブル(傷つきやすい)」という概念を用いてそれをとらえようとしています(61頁)。

また、社会福祉の L 字型構造(97頁)では、社会福祉を社会サービスの一つとして捉えつつ、社会福祉以外の施策群と比較する中で、社会福祉は固有性を有するとともに、他の施策に対して補充性・代替性を持っていることを提唱しています。少し難しく感じたかもしれませんが、他の施策が十分に対応できていないところを社会福祉がカバーし、やがて必要な場合には新しい施策へと先導していくというイメージでとらえるとわかりやすいかもしれません。

さらに、地域福祉型社会福祉への展開(140頁)では、利用者の生活を地域社会の中で支えるためには、施設福祉型の援助観ではなく縦割り社会福祉から横割り社会福祉へ転換する必要性を述べています。

少子高齢化の進展や社会格差が深刻化していくなかで、社会福祉に対する人々のニーズはますます高まっていくことでしょう。こんにち、私たちが必要とする社会福祉とはどのようなのでしょうか。また、どのような期待が寄せられているのでしょうか。

本書には、これからの時代に対応するための社会福祉のエッセンスがたくさん詰まっています。

福祉って、特別なことじゃなくて、私たちの日々の生活の中にあるものなのかもしれません。学生の皆さんの暮らしにもきっと重なる何かが見つかることだと思います。